愛知・岐阜・三重県で1994年に出生した日本人64,447名中の口唇・口蓋裂発生頻度に関する研究

夏目長門，鈴木俊夫，河合　幹※

要約：１９９４年1月1日より１２月３１日の間に出生した日本人６４，４４７名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、７５名（０．１１６％）に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は８５９人に1人であった。

見出し語：口唇裂，口蓋裂，発現率

研究方法：愛知・岐阜・三重の３県下に所在するすべての出産施設に調査依頼を行い、協力の得られた５６５施設のうち２９０施設を調査対象施設とした。調査対象者は、６４，４４７名であり、これは同時期の愛知・岐阜・三重県の全出生数１１２，９４４名の５７．０６％である。

下記の項目について記載を依頼した。

1. 施設における総出生数
2. 口唇・口蓋裂児の有無

　a．裂型，b．性別，c．出生月，d．出生時体重，e．他の合併症の有無，内容

3. 施設所在地

結果：愛知県の総出生数の５５．９％に当たる４１，４６２名（１７４施設）、岐阜県の総出生数の５８．４％に当たる１２，０４７名（６４施設）、三重県の総出生数の６０．３％に当たる１０，９３８名（５２施設）について調査した。本調査では愛知県は４１，４６２名中に５０名、岐阜県は１２，０４７名中に１０名、三重県は１０，９３８名中に１５名の口唇・口蓋裂児が認められた。その結果、本症の出現率は愛知県０．１２１％（１：８２９．２）、岐阜県０．０８３％（１：１２０４．２）、三重県０．１３７％（１：７２９．２）であった。この数値をもとに調査対象年の本症患者の総出生数を推定すると９５％信頼限界内において、愛知県８９．３～８９．６名

※愛知学院大学歯学部口腔外科第2講座

、岐阜県３４．０～３４．１名、三重県２４．８～２４．９名の本症患者が出生していたと推定される。また、同様に人口動態統計をもとに我が国全体で出生していたと推定される本症患者数は１４９１．１～１４９５．４名である。

裂型分類についてみると愛知県では口唇裂１５名、口唇・口蓋裂２３名、口蓋裂１２名、岐阜県では口唇裂４名、口唇・口蓋裂６名、口蓋裂０名、三重県では口唇裂４名、口唇・口蓋裂６名、口蓋裂５名であった。

本調査も愛知県においては１４年目を迎え、患者数も愛知・岐阜・三重の３県を合わせると９００名を越えた。そこで生下時体重が明らかな８５８名について裂型別に体重を集計したところ口唇裂２９８４．１g（±３１．０）、口唇・口蓋裂２９６６．６g（±３０．０）、口蓋裂２９９５．３g（±３６．０）、男女別では男３０２２．３g（±２６．０）、女２９２４．３g（±２６．２）であった。また、裂型・性別合併症発現比率について集計したところ男性では口唇裂１２．９０％、口唇・口蓋裂１３．２０％、口蓋裂２４．２９％、女性では口唇裂９．４２％、口唇・口蓋裂２１．０５％、口蓋裂１８．６４％であった。また、出生月の明らかな９２８名についてその出生月別に集計した。

考察：本研究は１９８１年より本学の所在する愛知県において愛知県産婦人科医会、並びに助産婦会の協力を得て調査を開始し、１９８４年から解析プログラムを開発してデータベース化をはかっている。本プログラムには１９９４年までの１０９９名の登録を行った。本データベースに登録された１９８２～１９９４年の総調査対象数は７０１，１８１名で本症患者は１，０００名であったので、本症発現率は０．１４３％であった。

裂型分類については１９８１～１９９４年の１，０６３名についてみると表６のごとく男性では口唇裂２１１名、口唇・口蓋裂３００名、口蓋裂８４名であった。女性では口唇裂１５１名、口唇・口蓋裂１８３名、口蓋裂１３４名であった。

われわれの施設においては、データーベースにおいて疫学解析を行う場合、病院統計による誤差を最少にするためPrimary caseのみを基本資料とするようにしているが、この方法をとったところで前述のことを防ぎ得ない。このため、われわれは、本症発現率、季節変動については東海地区の出産施設のものをモニタリングして、本症の発現率に著しい変動が生じた場合はただちに我々の施設に来院した患者集団において、環境要因等を含めた詳細な調査を行う体制をとっているが、現在まで幸いにして本症発現率の著しい上昇は認めていない。しかし、今後もこのような状態が生じた場合にただちに即応できるような体制を維持したいと考えている。

最後に本調査に関して御協力を賜りました産婦人科医会、助産婦会の皆様及び調査集計、解析を担当した住田成子秘書に深謝致します。

Abstract : Incidence of cleft lip and/or palate among Japanese babies in Aichi, Gifu, Mie prefecture during 1982~1994.

Nagato Natsume, Toshio Suzuki, Tsuyoshi Kawai To determine the incidence of cleft lip and/or palate (CL/P) among the Japanese, 64,447, infants born between Jan. 1, 1994, and Dec. 31, 1994 were investigated. 75 infants (0.116%

)were found to have the abnormalities; appro-ximately 1.16/1000 live birth. Of these inf-ants the number CL, CLP, and CP were 23(30.7%), 35(46.6%), and 17(22.7%) respectively.

文　　献

1)Natsume, N., Suzuki,T., and Kawai, T. : Clinical analysis of cleft patterns of lip and plate, Cong. Anom., 24: 74 -82,1984.

2) Natsume, N., Suzuki, T., Kawai, T. : The prevalence of cleft lip and plate in the Japanese. Brit.J.Oral. Maxillofoc. Surg. 26: 232-236,1988.

表1　調査対象者（愛知・岐阜・三重）

	調査対象者		総出生児数
愛　知	41,462	(55.90%)	74,177
岐　阜	12,047	(58.42%)	20,623
三　重	10,938	(60.28%)	18,144
合　計	64,447	(57.06%)	112,944

表2　本症患者出現頻度（愛知・岐阜・三重）

	本症患者(名)	調査対象者(名)	出現率%	出現頻度
愛　知	50	41,462	0.121%	1: 829.2
岐　阜	10	12,047	0.083%	1: 1204.2
三　重	15	10,938	0.137%	1: 729.2
合　計	75	64,447	0.116%	1: 859.3

表3　本症患者の総出生数の推定（愛知・岐阜・三重）

愛　知	８９．３～８９．６	名	(95%CL)
岐　阜	３４．０～３４．１	名	(95%CL)
三　重	２４．８～２４．９	名	(95%CL)

表4　全国における
本症患者の総出生数の推定

1982年	3117.3	～	3124.1	名
1983年	2467.3	～	2473.5	名
1984年	1862.8	～	1868.0	名
1985年	2088.2	～	2093.4	名
1986年	1955.6	～	1960.7	名
1987年	1948.4	～	1953.4	名
1988年	1964.4	～	1969.3	名
1989年	1801.4	～	1806.1	名
1990年	1577.0	～	1581.8	名
1991年	1410.6	～	1417.3	名
1992年	1473.0	～	1477.0	名
1993年	1684.1	～	1687.5	名
1994年	1491.1	～	1495.4	名

表5　裂型分類（愛知・三重・岐阜）

単位：名

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合　計
愛　知	15	23	12	50
岐　阜	4	6	0	10
三　重	4	6	5	15
合　計	23	35	17	75

表6　裂型分類（3県合計　1981～1994）

単位：名

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合　計
男	211 (35.5%)	300 (50.4%)	84 (14.1%)	595 (100.0%)
女	151 (32.3%)	183 (39.1%)	134 (28.6%)	468 (100.0%)
合計	362 (34.1%)	483 (45.4%)	218 (20.5%)	1063 (100.0%)

表7　裂型・性別合併症発現比率

	口唇裂	口唇、口蓋裂	口蓋裂	合　計
男	24／186 12.90%	33／250 13.20%	17／70 24.29%	74／506 14.62%
女	13／138 9.42%	32／152 21.05%	22／118 18.64%	67／408 16.42%
合　計	37／324 11.42%	65／402 16.17%	39／188 20.74%	141／914 15.43%

1983～1994年　愛知・岐阜・三重3県の裂型性別の明らかな964名中　合併症不明50名を除く

表8　裂型・性別平均体重

mean（＋SE）

	口唇裂	口唇・口蓋裂	口蓋裂	合　計
男	3045.9 (±42.6)	2994.2 (±58.1)	3059.4 (±64.0)	3022.3 (±26.0)
女	2899.3 (±43.4)	2920.3 (±48.4)	2957.0 (±42.4)	2924.3 (±26.2)
合　計	2984.1 (±31.0)	2966.6 (±30.0)	2995.3 (±36.0)	2977.7 (±18.7)

対象患児：1984～1994年　愛知，岐阜，三重3県の裂型・体重・性別の明らかな858名

表9　月別出生数

出生月	出生数	出生率	全国平均
1月	64	6.9%	8.3%
2月	72	7.8%	7.5%
3月	85	9.2%	8.2%
4月	77	8.3%	8.1%
5月	66	7.1%	8.6%
6月	68	7.3%	8.3%
7月	82	8.8%	8.9%
8月	91	9.8%	8.7%
9月	66	7.1%	8.5%
10月	94	10.1%	8.5%
11月	75	8.1%	8.0%
12月	88	9.5%	8.4%
合計	928	100.0%	100.0%

*1 1982年~1994年 愛知、岐阜、三重3県の出生月の明らかな928名の合計

*2 全国平均は過去5年間のものである

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:1994 年 1 月 1 日より 12 月 31 日の間に出生した日本人 64，447 名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、75 名(0．116%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は 859 人に 1 人であった。